

# 青工研かわら版 12月号

## 成果発表大会

～年間テーマ「顔になれ！」 スローガン「チャンス到来」～



開催日 2022年12月17日  
時間 16:00～20:35  
開催場所 中国名菜 敦煌  
実行委員長 成果発表大会実行委員長  
茂呂 雄一 新和建設工業(株)  
<https://www.sinwasagami.com/>

### 例会の主旨・計画内容

今年度は、1年間の活動成果を全会員が全員の前で発表し、それぞれの学びを相互活用する成果発表大会を開催しました。

今年度の統一テーマ「顔になれ」、スローガン「チャンス到来」を基に、会員全員が青工研活動に邁進し、多くの経験を積み重ねてきました。その本年の活動の軌跡を振り返り、スタート時の決意や自身の努力、仲間との関わりを思い起こす事で、熱い気持ちを滾らせ言葉にします。そしてその気持ちが周囲に伝播し感動を与える事が出来ます。

そこで本例会では、1年間の活動の中で得た多くの学びや気づきを全会員が、熱い気持ちを持って発表し、互いの気持ちを高める事で、さらなる顔になる活動の原動力とする成果発表大会を目指しました。



(写真左：茂呂成果発表大会実行委員長)

## 会長挨拶



南会長から松竹梅という言葉の「竹」が好きというお話を頂きました。竹は上にまっすぐ伸びていく、ポジティブな印象があり、そして節がある。1年の振り返りを行い、次の節目に向けてどんどん伸びていく様がこの青工研であり、成果発表大会という事。南会長は今回を含め12回の節目を迎え、その度に成長を実感しているとの事。とても気が引き締まるお言葉を頂きました。

## 実行委員長挨拶



南会長の冒頭挨拶の後、茂呂渉外理事が実行委員長として挨拶を行いました。

「はいよいよ今年度の最後の開催例会となります。今日に至るまで悪戦苦闘しましたが、実行委員メンバーの皆様さらに協力して頂いた皆様のおかげで今日を無事に迎える事が出来ました。今日は1年の集大成として、それぞれの活動成果を思い切って余す事なく発表して頂けたらと思います。また各自の発表前に表示される動画の方も素晴らしい出来となっております。発表と併せ楽しみにして頂ければと思います。本日は長丁場になりますが、どうぞ一日よろしくお願いいたします。」

挨拶は参加メンバー全員による盛大な拍手で締め括られ、会場は熱気あるボルテージを保ったまま、それぞれのメンバー思いの籠る成果発表へとバトンは繋がりました。

## 成果発表（第1ブロック）



第1ブロックは年間テーマに「喜びの探究」を掲げ、ペア制として1年間活動してきました。初めに1年間の活動を動画で振り返り、ブロック員各々が学んできた事や得られた成果を発表していききました。それぞれのペアがお互いに対しての思いの丈をぶつけ合い、ブロック長からも熱いメッセージを送られ、感極まった場面も見られた素晴らしい成果発表となりました。

ブロック活動を通して学んできた「喜びの探究」を今年度で終わりにせず、これからもより多くの喜びを見出せるよう探究し、今後の活動に活かして欲しいと思います。1年間お疲れ様でした。



## 成果発表（第2ブロック）



第2ブロックは「己に克て！」という年間テーマを掲げ1年間活動してきた様子が動画で放映され、各々の気持ちが高まった状態から発表が始まりました。ブロック員一人ひとりが活動を通して気付かされた事や、活動をした事による成果を思い余す事なく発表されました。中には思いが高まり感情があふれ出る様子もあり、素晴らしい成果発表となりました。

第2ブロックの皆様1年間お疲れ様でした。「己に克て！」というテーマで進む1年は終わりましたが、この先幾つもの壁が目の前に出てきた時、今回の活動を通して感じたものを思い出して強く乗り越えて欲しいと思います。

## 成果発表（実行委員長）

相模原市青年工業経営研究会  
2022年度  
成果発表大会

本日を迎えるまでに、悪銭苦闘しましたが、皆様のご協力があり本日を迎える事が出来ました。今回の成果発表

大会は、動画で勢いを付け、1年の集大成を余す事なく発表頂き、皆さんの学びを相互活用して頂く場としました。

自身の1年間の活動を振り返り、やり切った熱い気持ちを発表すると同時に、仲間の発表を聞いて自分の学びに変えて頂けたと思います。



## 成果発表（役員）



2022年度を役員に振り返っていただきました。南会長は「メリハリある運営など新たなチャレンジを実現できた」、本庄副会長は「立場によって見える景色が違う」、沼澤副会長は「仲間が居たからこそ思い切り挑戦が出来る」、長内監事は「青工研は人生を大きく変える会だと聞いたとおりだった」、山口監事は「本年の活動を価値あるものにするかどうかは、今後の皆の行動次第である」と、各立場から次年度に繋がるコメントを頂きました。

## 茂呂実行委員長から例会を終えて

実行委員長として様々な気づきと反省点が多くありました。全体例会だったにも関わらず、全会員を最後まで巻き込む事が出来ませんでした。それが結果として例会当日まで続き、場当たりの所もありましたが、実行委員や会員の皆様のおかげでやり切る事が出来ました。この経験が糧になるよう申し送り事項等に残しておきたいと思えます。

## 記者としての感想

記者：石井隆匡

1年間の活動の振り返りの成果発表大会。猪突猛進で突き進むのも良いですが、やはり一度立ち止まり、振り返り、反省、決意を行う重要性を再認識しました。1年間お疲れさまでした！

記者：浦上裕生

今年度は例年と違い2月ではなく、12月に成果発表大会という設営でした。ブロック毎で開催する方式ではなかった為、メンバー各々がどのようにブロックと関わり成果に繋げたのか分かり易く知る事が出来た為、非常に興味深い内容となりました。私も他ブロックの皆様とどんな発表をし、興味を持ってもらえるか工夫するなど自身への学びが高い例会となりました。

記者：上林恒平

今年度の活動の最後を飾る成果発表大会は、青工研会員全員が各々の成果や学んできた事を発表し合うという、私自身にとっても初めての経験となりました。事前準備の段階ではどのような進行になるのか想像する事が難しい部分もありましたが、当日はお互いに刺激を受け合い、感情が高ぶって涙を流す場面も多く見られ、青工研の良さを改めて感じられる素晴らしい例会となりました。私自身も今年度の「顔になる」活動を通して学んできた事を次年度に活かしていきたいと思えます。

記者：鈴木駿輔

今年の成果発表は全会員が全員の前で年間の活動を振り返り発表しました。準備から走り続けてきた会員の発表を実際に聞き、ピンチをチャンスに変えるチャレンジ精神が強く表れ感じ取る事が出来ました。入会して2か月の私は始まりの背景を知りませんでしたが、各々が強い気持ちをもって行動していたと改めて分かりました。私も自社の顔になれるようしっかり努めて参ります。

記者：大谷勇樹

2022年度成果発表大会は、相互活用を目的として、発表を聞き、会員の皆さんがどのような想いで活動し、成長に結びつけたかを知る良い例会となりました。

皆さんの発表を聞いて、青工研に関わった分だけ自身自社の成長を得られる事を、改めて感じる事が出来、素晴らしい例会であったと感じました。

記者：志村亜希子

私にとって、初めて「成果発表大会」でした。皆が統一テーマ「顔になれ」を意識して活動した成果を聞く事ができ、大変刺激になりました。また、全体で集まったの成果発表大会だったからこそ、他ブロックの話を聞く機会となりました。全会員が真摯に向き合った事を知る事で自分の事を客観的に振り返る事が出来たと思います。大変すばらしい機会を準備提供して頂き、ありがとうございました。

記者：波多野佑典

皆様、良い顔で成果発表されていました。その中で、私は広報活動実行委員長としても、1年間の取り組みを発表しました。そして、これが今年度最後のかかわり版の発行となります。1年間の青工研活動に対して、20の記事がありますので、改めて No.1 から読んで頂けたらと思います。